

東っ子プラン2001 であいふれあい 学びあい
新潟県燕市立燕東小学校

— 学 校 の 概 要 —

学校規模

学級数：13学級(内特殊学級1学級)

児童数：294人

教職員数：20人

体験活動の観点からみた学校環境

燕市は地理的に県の中央に位置し、商業と工業の町として発展しており、都市化が進み、自然が減少している。

学校は、商業を中心とした地区と農業を営む地区を学区とする。

核家族化と少子化の現象が現れてきている。地域社会で集団的に活動したり、大勢で遊んだりすることも著しく減っている。

当校で実施した保護者と児童への調査によれば、次のような状況である。

- ・ 家の中で遊ぶことが多い。
- ・ 塾や習い事に行っている子が多い。
- ・ 学校生活はとても楽しい。

連絡先

〒959-1255

新潟県燕市大字燕4800番地1

電話：0256-63-2070

FAX：0256-63-5676

電子メール：

tsubamehigashi-e@city.tsubame.niigata.jp

— 体 験 活 動 の 概 要 —

活動のねらい

自分たちの住む地域を、自分たちの手で住みよいものにしていこうとする気持ちを育てる。

自主的なボランティア活動や、たくさんの人々との交流を通じて、信頼関係と好ましい人間関係を培う力を育てる。

主な活動内容・方法(位置付け・期間等)

地域を花でいっぱいにする活動

(特別活動7時間)

地域を清掃する活動

(夏季休業中のボランティア活動)

特別養護老人ホームとの交流活動

(特別活動2時間)

子どもフォーラムの開催

(特別活動2時間)

合奏団児童による訪問活動

(4, 5, 6年生合奏団児童によるボランティア活動)

体制等の工夫

実行委員会の設置、保険加入

専門家による直接指導

活動の成果等

好ましい人間関係が築かれた。

子ども自身の活動が自信に満ちたものとなった。

ボランティア活動への意欲が高まった。

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

- ア 自分たちの住む地域を、自分たちの手で住みよいものにしていこうとする気持ちを育てる。
- イ 自主的なボランティア活動や、たくさんの人々との交流を通じて、信頼関係と人間関係を築く力を育てる。
- ウ お世話になる人たちに対する思いを自分なりに伝えて、人と人とのつながりやふれあいを大切にできる。

(2) 全体の指導計画

ア 活動の名称

「東っ子プラン2001 ~であい ふれあい 学びあい~」

(この活動は、平成13年度文部科学省委嘱事業「学校と地域を通じた奉仕活動推進事業の一環として実施したものである。)

イ 実施学年

(ア) 全校的な取組

地域美化活動

特別養護老人ホームの訪問活動

(イ) 学年での取組

ボランティア体験キャンプ(5, 6年で希望者)

一人暮らしのお年寄りを元気づける敬愛はがき(6年)

地域内の福祉施設の訪問(委員会児童)

子どもフォーラム(5, 6年)

ウ 活動内容

ボランティア活動：地域を花で飾る活動，地域のゴミ拾い活動，特別養護老人ホームの訪問活動，ボランティア体験キャンプ，一人暮らしのお年寄りを元気づける敬愛はがき，地域の福祉施設の訪問

地域の方と交流する活動：子どもフォーラム

エ 教育課程上の位置付け

(ア) 全校的な取組

地域美化活動：特別活動，総合的な学習の時間

(日常的な花の世話活動は教育課程外の活動)

特別養護老人ホームの訪問活動：特別活動

(イ) 学年での取組

ボランティア体験キャンプ(5, 6年で希望者): 教育課程外(夏季休業中)

敬愛はがきに関する学習活動(6年): 道徳

地域の福祉施設の訪問(委員会児童): 委員会活動

子どもフォーラム(5, 6年): 学校行事

オ 実施時期(日数や時間数)

(ア) 全校的な取組

地域美化活動：2時間×4日

特別養護老人ホームの訪問活動：2時間×6日

(イ) 学年での取組

- ボランティア体験キャンプ(5, 6年で希望者): 6時間×2日×2泊
- 敬愛はがきに関する学習活動(6年): 1時間×1日
- 地域の福祉施設の訪問(委員会児童): 2時間×4日
- 子どもフォーラム(5, 6年): 2時間×1日

カ 活動場所

(ア) 全校的な取組

- 地域美化活動: 各町内, 校舎周辺
- 特別養護老人ホームの訪問活動: 特別養護老人ホーム「福寿園」

(イ) 学年での取組

- ボランティア体験キャンプ(5, 6年で希望者): 市民研修館他
- 敬愛はがきに関する学習活動(6年): 教室
- 地域の福祉施設の訪問(委員会児童): 特別養護老人ホーム「福寿園」他
- 子どもフォーラム(5, 6年): 体育館, 教室等

キ 継続の状況等

花いっぱい運動を展開する前に, 事前に専門家の方から苗の植え方や世話の仕方について直接指導を受けた。世話活動では, 児童は夏休み中も当番を決めて水やり等の活動を継続していた。また, ある町内では独自に「花いっぱい運動」を展開していた。

花いっぱい運動をはじめとした様々な活動について, 「子どもフォーラム」の中で意見発表することができた。保護者や地域の方の関心も高く, 今後の取組も期待されている。

2 活動の実際 <花いっぱい運動>

前述のとおり, 本校では種々の体験活動を行っているが, ここでは, 地域美化活動に焦点を当てて活動の実際を紹介する。

(1) 事前指導

ア リーダー指導と事前調査

花いっぱい運動を展開するにあたり, 各町内で(12町内)花の苗を植えることが可能な場所, プランターを置くことのできる場所の選定をした。町内子ども会長と町内担当の職員で現地に行き, 次の視点で場所を選んだ。

- ・ 人通りが多く, 地域の人目にふれるところ
- ・ 水を確保できるところ
- ・ じょうろ等の置き場所があるところ
- ・ 児童が水やり等の世話をするとき危険がないところ

イ 花苗の植え方指導

専門家の方に学校にきていただき, 2回にわたって直接指導を受けた。1回目は職員のための研修を行った。土の配合の仕方, 根きりの方法, プランターの中での苗の配置, 水やりのタイミング等, 「なるほど!」と思う指導を受けることができた。これにより, 職員も自信をもって児童の指導に当

専門家から指導を受けました



たることができた。

2回目は体育館で児童に直接指導していただいた。苗を土に埋めるだけと簡単に考えていた児童にとっては、新鮮な驚きがあった。植物の特徴を知ることが、上手に育てることの秘訣であることを学ぶことができた。

(2) 活動の展開

ア 活動の場や施設

活動の場所は以下に示すとおり、花の苗(プランター)を設置したところになる。それぞれの場所に多少差があるものの、前記(1)アの視点はクリアすることができた。

活動場所の一覧(一部抜粋)

町内名	プランターの 置き場所	水をいただく所	じょうろの置き場所	花の種類
幸 町	幸町商工会議所	幸町商工会議所	幸町商工会議所	サルビア 百日草 ペゴニア コリウス
朝日町	児童センター 郵便局	児童センター 郵便局	児童センター 郵便局	百日草 コリウス
日の出	日の出町公園	日の出町公園	日の出町公園	サルビア 百日草 ペゴニア コリウス
~~~~~				
東 町	大島病院前バス停 処理場公園	各自の家 処理場公園	処理場公園	サルビア 百日草 ペゴニア コリウス
佐 渡	労災病院 福寿園	労災病院 福寿園	労災病院 福寿園	サルビア 百日草 ペゴニア コリウス

イ 児童の活動の状況

5 / 17 町内子ども会長に事前指導

5 / 29 町内子ども会の実施

花の種類 場所 世話の方法

5 / 30 花の世話をする場所への依頼

6 / 4 プランター, 苗, 土等の発注

6 / 12 午前中にトラックで指定の場所に運搬

午後, 専門家から植え方と世話の仕方の指導を受け, 各町内で実際に花の苗を植える。

6 / 13 各町内の役割分担にしたがって世話活動の開始

<花の種類> サルビア、ペゴニア、百日草、コリウスなど

7 / 19 夏休み前の町内子ども会で、夏休み中の世話の仕方についての確認

10 / 15 枯れた花の撤去と新しい花の植え替え作業

11 / 26 町内子ども会で今後の活動を相談。お世話になった方へのお礼をすることにする。

12 / 6 トラックでプランターの回収

12 / 15 冬を越せる花とそうでない花とを分別し来期に備える。

#### ウ 児童の活動の実際

花の苗を植える作業の日、地域の方の手伝いをいただくことができた。一緒になって苗を植えてくださった商店街の方。設置場所をいっしょに考えてくださった町内会長さん。わざわざ看板を作ってくれた病院の方。町内の回覧板で活動の様子を紹介してくださった町内の広報担当の方。子どもたちは、たくさんの方とのふれあいにより、自分たちがこれから行う活動について自信を深めると同時に意欲を高めることができた。

また、世話活動においても様々な交流をもつことができた。水をやっているといつも声をかけてくださる地域の方。通りかかるといつも気に掛けてくださるお年寄り。枯れかかった花に水をあげてくださる方。世話活動に一生懸命取り組む子どもたちの姿勢により、各町内に設置したプランターは町内のオアシス的な存在になり、好評を博した。

子どもたちが「地域との結びつき」を実感できたのは世話活動だけではない。子どもたちは世話活動の成就感から、地域の方へ感謝の気持ちをもつようになった。そこで、町内子ども会を開き、どういう方法で感謝の気持ちを表すかについて話し合った。どの町内も「お礼の手紙」を書いて渡そうということになった。子どもたちは手紙を書くことにより、たくさんの方々に支えられていたのだという自覚を新たにすることができた。また、その手紙に対する返事が続々と学校に届き、子どもたちは自分たちが行った活動に誇りをもつとともに、地域の方の温かさを実感した。

また、4年生の子どもが、全校集会で次のような意見発表をしている。

来年こそがんばるぞ

私は来年がんばりたいことが二つあります。一つ目は「花いっぱい運動」です。私は今年「花いっぱい運動」で東町のしより場公園の水やりをしました。はじめはいっしょにやっていたけど、だんだんとやらなくなってきました。来年は高学年になるので自分の仕事は忘れずにきちんとやっていきたいです。(後略)



見て見て きれいでしょ

木枯らしの季節も過ぎやがて冬を迎える支度に追われる毎日でございます。

先日はたくさんのお手紙を頂きまして誠にありがとうございました。

暑さの中、子どもたちはよくがんばりましたね。一枚一枚全部読ませていただきました。児童の素直でやさしい気持ちには私共々家族一同感激いたしました。

ものを育てる心、手をかけてやればそれに応えてくれます。本当に大切なことと思います。

今後機会がありましたら、是非協力いたします。

うれしいおたより

この発表でも分かるように、花いっぱい活動が子どもたちの心に根づき、「自分の地域は自

分たちの手でよりよくしていこう」とする意欲が高まっていることが分かる。

また、職員もこの実践を通してたくさんのことを学ぶことができた。

- ・ 地域の様子に詳しくなり、地域の特性を肌で感じた。
- ・ 子どもたち、地域の方と共に汗したことで信頼関係が深まった。
- ・ 教室では見ることでできない、子どもたちのよさが発見できた。

「花を育てる」という活動は同じでも、それを校内だけで行うことよりも、地域の方々と一緒になって行うほうが、より教育的価値の高いことを改めて痛感した。

### 3 体験活動のための体制

#### (1) 実行委員会の組織

東っ子プラン2001実行委員会を組織して、活動を推進した。学校評議員、PTA会長、燕市社会福祉協議会、ボランティアコーディネーター、民生委員、燕市生涯学習課職員をメンバーとして、定期的に会合を開き(年3回)、計画立案、評価に生かしてきた。また、実行委員以外の方からも自発的な支援をいただくこともできた。特に、花いっぱい運動については、たくさんの地域の方から直接的、間接的に支援をいただいた。

#### (2) その他

児童が入学する中学校との連携を図り、可能な限り活動を共にしてきた。特に、花いっぱい運動においては、中学校にも運動の輪を広げることができた。

苗を植える中学生



### 4 成果と課題

活動後に実施したアンケート調査では、ほとんどの児童が「地域の人に喜んでもらえてよかった。」「もっと町をきれいにしたい。」「来年も続けたい。」と回答している。

#### (1) 児童の変容

各ボランティア活動の体験から、他者への思いやりの心、自分の行動に責任をもつことの大切さを学んだほか、教科の学習においても、物おしせずに発表する児童が多くなったなど、学校生活に生かされている。

#### (2) 地域や保護者の変容

児童の活動の様子を見たり共に活動したりした地域の方からは、素晴らしい活動であるとの評価をいただいているほか、保護者の方についても、自分の子どもだけでなく、誰に対しても優しい言葉がけをする等、地域ぐるみで健全育成を図ろうとする体制となってきた。

#### (3) 職員の変容

職員が児童とともに地域にでかける機会が大変多くなり、地域の特性がよく把握でき学習に生かしている。また、子どもや地域の方と共に汗したり、会話したりすることにより、信頼関係が深まっている。それらの変容が東っ子への生きた指導として効果をあげている。

### 5 今後の取組の方向

完全学校週5日制のスタートにあたり、より一層地域との結びつきが求められている。今後も、「東っ子プラン2001」事業を発展・充実させて生きる力を培っていくこととしたい。

また、教科の学習に生きて働く体験活動のあり方と総合的な学習の時間への運用に工夫をこらしていきたい。

【本事例活用に当たっての留意点】

本校の体験活動には、「地域を花でいっぱいにする活動」、「地域を清掃する活動」、「特別養護老人ホームとの交流活動」、「子どもフォーラムの開催」など様々なものがある。活動事例として挙げられている「地域を花でいっぱいにする活動」では、活動を行う前に児童は専門家から花の苗の植え方指導を受けたり、実際に花の苗を植える作業では地域の方の手伝いをいただいたりするなど、専門家や地域の方々との連携・協力を十分に行っているなどの特色が見られる。その中で児童が自分の活動に自信を深めたという。そして、他者への思いやりの心や自分の行動に責任を持つことの大切さを学んだという。

このような活動を行うためには、体験活動の内容を検討するとともに、専門家の知恵や技術を学びながら生徒の体験を豊かで深いものにするための学習の場を設ける工夫を行うなど、事前の計画を立てておくことが大切である。